

## 土 木 建 築

我が国の道路が非常に貧弱なことは、外国の土を踏まない日本人にも容易にうなづけることで近年の自動車交通量激増は これら道路の消耗に拍車をかけている。全国で自動車交通可能道路は、総延長の50%強、舗装道路は15%に過ぎず、舗装道路95%といわれる英国、70%といわれる米国とは較べものにならない。

本県は地形が平坦で、道路開発に大きな支障はないようであるが、2万5千軒の県内道路で、舗装されているものは国道の35.6%、県道の4.8%、市町村道では0.2%という状況である。残る未舗装道路は砂利道であるが、これも本県には河川がなく、火山地帯でもないため、良質の川砂利や硬質の碎石の資材に乏しく、これを近県から購入するため、安い砂利、碎石が輸送費分だけ割高となり、道路補修が思うにまかせない現状である。

このような道路の各所には、橋梁がある。本県は大きな河川、山岳がないので、全国でも橋梁の少ない県である。橋梁数は6 338、総延長47軒、内64%が屢々補修を要する木橋である。

住宅不足のもたらす直接、間接的な災いを拾い上げれば際限がないが、過密住宅では子女の教育に悪影響がある。伝染病蔓延の危険がある。幼児の死亡率が高い。遠距離通勤にあまんじなければならない。従つて交通費が嵩み 健康の障害になる等いずれも我々の毎日に直結している問題ばかりである。

さて、本県の不足住宅戸数は、昭和26年に52 000戸と云われていたが、その後の建築状況を見ると年々住宅は増加し、昭和30年には4 195戸が着工建築された。しかし年々この程度で住宅不足を解消することは難かしく、加えて、東京都民のベッドタウンといわれる新しい街造りが始まつている以上、強力な住宅建設計画を樹て、公営住宅の建設と共に、民間資本による住宅建設によらなければ、県民の住宅問題解決は望めないようである。